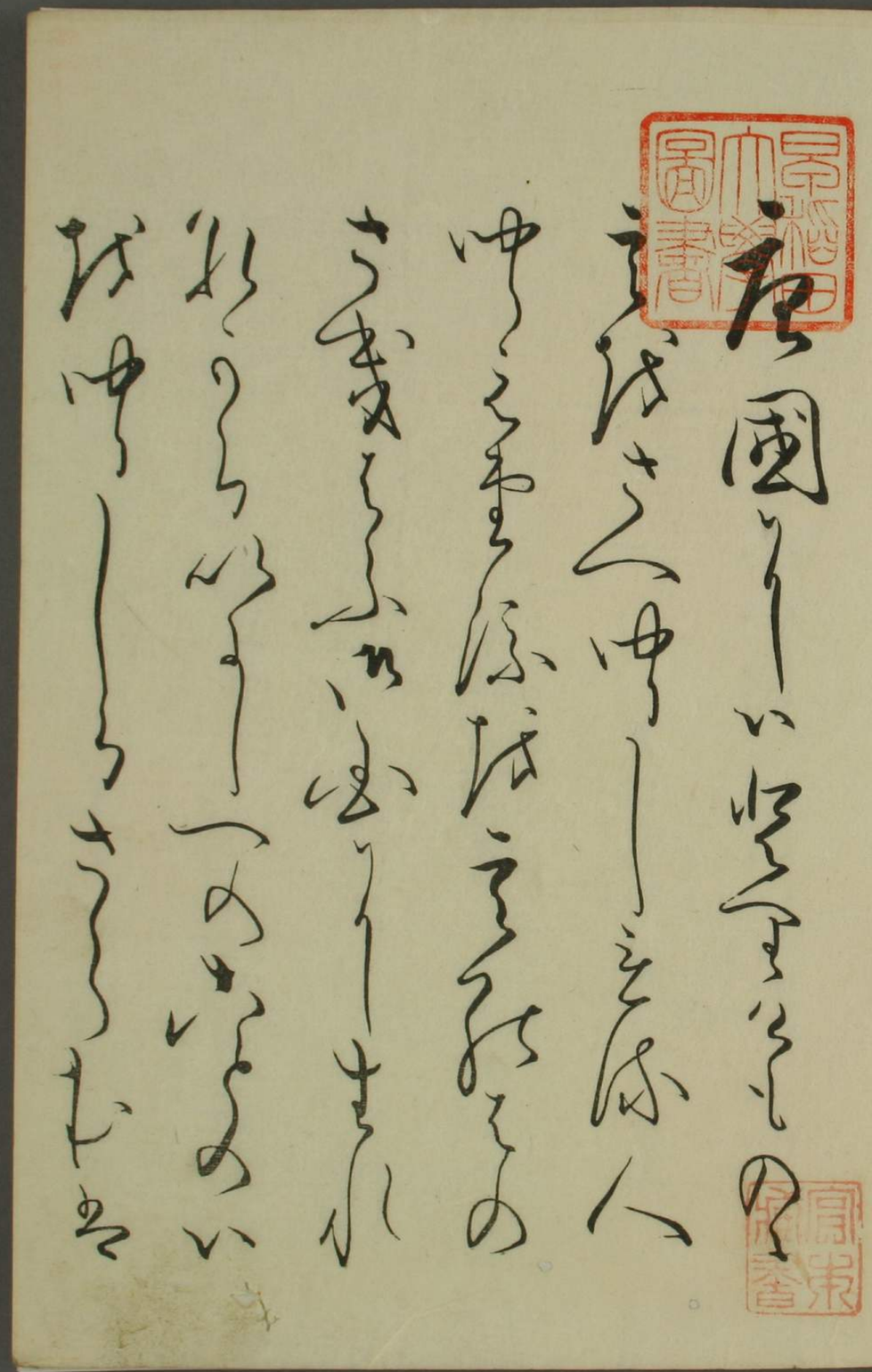
特別
へ24
4891

特
門 ヘ 24
號 4391
卷



昭和二九年
二月廿五日
購求

果代の侍先手を
わたしはしてさしを
出さきさうに形象
おうれをあらかもたの
ものをつくるばかり
しをんとそ彼岸ら
にあるそれおれたる者の
お話ばうこそ不思議で
してあきれを入間
の形石井のさ形出
井上の淑蔭の井筒
あるしれを形象の

公治長命菖蒲屋敷
[illegible]
[illegible]
[illegible]
井之内文[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

むかしと共に柄をくん人まおろ
宗教箱をこそ[illegible]ける崔のいさけき
つゝれとゝ情まえ知ぬれの五切る
ひゝへの話りとよふふわいのとゝ
つゝることふのふなるを種のよめの
書れひ歌をむいとまの筆とひり
かすもんの古物語のりとてきれを
見るたさひふ法とる心詞をよひ

ふゝまゝ好きえるかれふるかさん
のきゝ誰ふめゝ拾ふさん拾ち
書せとせちりこえるにいあこのゝ
ゝ恋ふのつれきをおとれいさら
門ふつゝり仏ん

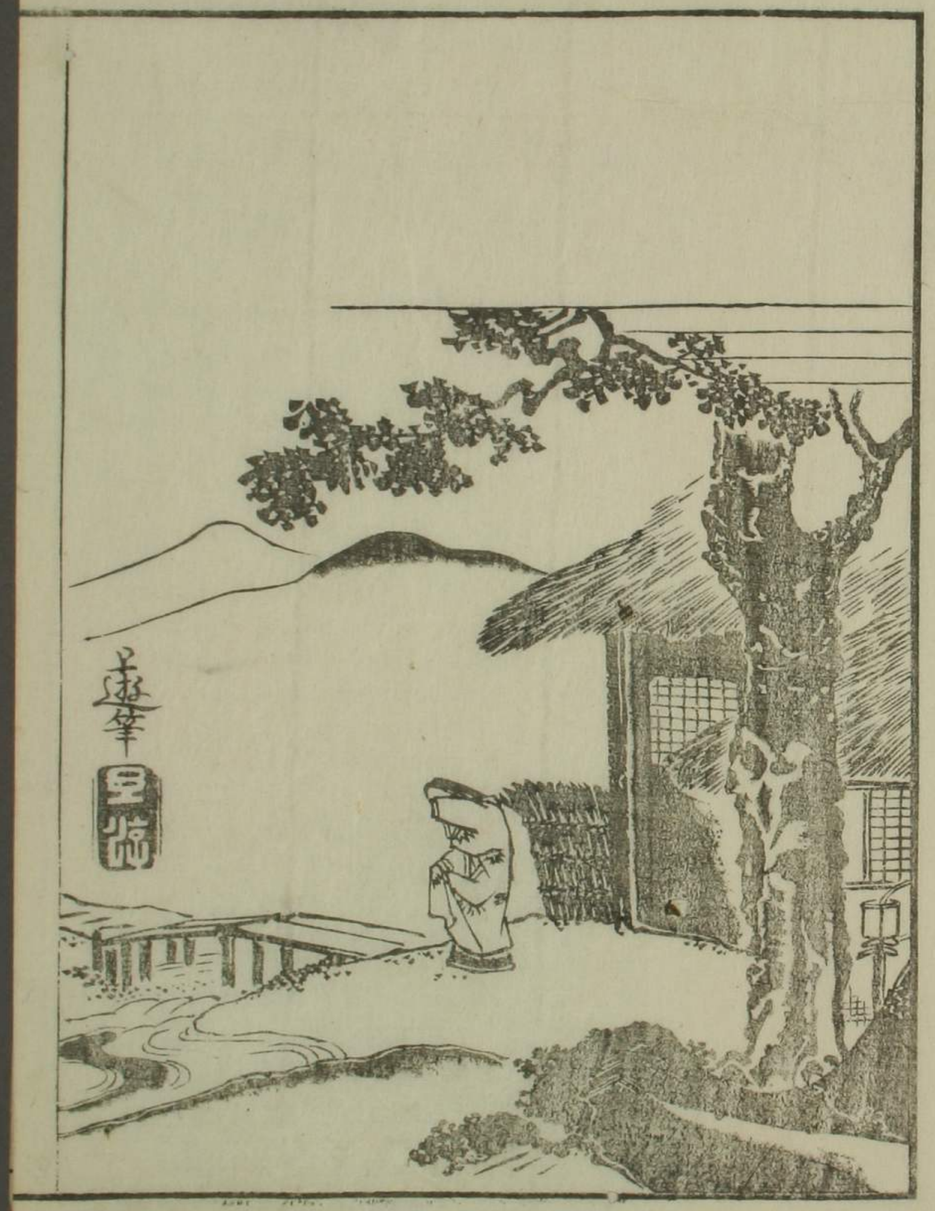
安樽舎の豆藤原汝之

幸佐弁史樋口観圭

むらおくれおくれむらつけるてうふ位うゑまづ花けれどもうゑき雨共ぐらき一枝栄えぬ蕗ふんにこのけぶつ事きるかぐ事ぬるもれき布ぐぐぬを。
ゑふ海ゑひて事ふ木こう柴こうるいざを共れてらむぐゑ花て。ゆゑくくゑ花うゑいとなきけふうきんなりゑれど。つひふ子といふとのれくてゑくうなくはうぐ花くゑおをゑうん。花を竜乃うちふやれひゑて。つれぐなる夕暮。物ゆえれなるぬぐの友ゑくて。ふをなぐさむるゑづゑと

れんーけるおられいんざ酒ゐーくゑ稲くたさ人
ゐて。常り義の荷ゑらゑゑするもいゑゑゐゐば
ゑんゐくみゑう。ゑ白義義ゑくゑ山くゐるゐおられ
義の義ゐるゐ酒ゐおりくさらて。衣ゐゐらひるゑゐゐ
すりおゑくゑる糊をいさゑくひければ常ちゐゐち
いゑうのゑゑうちさんなくつはひゐたくみ
もて。吉を礼んゑゑうゑる。ゐゐゐをつゐすくさゐど
ゑて。血乃ゐゐゑを流ーついゑゑう拓ゑんーゑゐ
おられのゑくを見やうて。

からゑさ世ゑゑゑ三不の井ゐのゐれいうてゐゐさう
むゑゑとゐる屋りしをさゐゐにおをひゑゑれつ。
ゑのむくゐいおゑゐぬるものゐやゐなどゐらくゑるさゐ。
いるむくつけーかくてゑんゑゑきをゑんゑれうて。衣
ゑゑゑひいるゑゑうけさう三不今ゑるゑていなんと
するにさゑゑゐゐ迎ゐゐ里れゐうをゑ
ゐれてゐばーものゑるをゑいゐゐゑばゐ栽のいさく
むら仲ゐ吹ゑゑさゐ風のゑるくゐむゑうゐゐゐゐゐゐく
虫の絲ゐをうゐゐうゐ迎ゐしるくゑれてゐゐ三不



ふれうの。あやとりのんだ。さびさる物なぐ。あるじ
君の。ゝ。ほうこ。ちうこ。いつく。こゝろまつ。ぢ。情
のうど。いつの世うこ。つもれ。なるんを。されうく
ちう。せうがの。流かて。蒙衆をつ。ちうこ。くさく
の。ゝ。こを。ま。こ。ちうこ。れるを。かるをうに。
ゐ。ちをとゞこ。ゐさ。ぐらんい。すさまぐらん。淺う
ま。れまし。ゝて。古の。血ちていと。祈んぶ。祈可
かいつけて。ゐるぐ。君ゐ。ゝうこまぐ。見をなつこまひね。
とてやぐて。あを。出て。雫ふぐ。風ふ。ゐるぐうて。

いづちいふけん。ゆるされくうせふけり。義うくともも
ちらびゆ。さりこり。まづ龍のうちをゐるふ
れるれば。こハいのたとうちおやろうれてゆ。
ゆをとくば。おれちゆ。ぐそい事やつ。ちん
てゆ。ゆ。ゆ。

はれどもふせんとゝふぶ。志ゞーおそいひまざらいつ
ひ。今いのちとゆすぐさやられんとするをう。
ぬふんせゝとてかゝる物なんおのれふはつゝおさし。
としていざまをとりてゐれば。ゐのうしろのうしげふ
はるさに志ゝさせゝふおそふーを見ぬ。うゝ里だれを
て。峯れ嵐谷はのあなゝで。まれふ友ざおれさ。
ものすごさつゝぶゝーはをおくれるハ。で男乃
れさけふゝさ。ぬいのゝものを。さふれん。今ゝいふ
あひおさ分ふて。ぬをとをはれを待んふも。こー方り

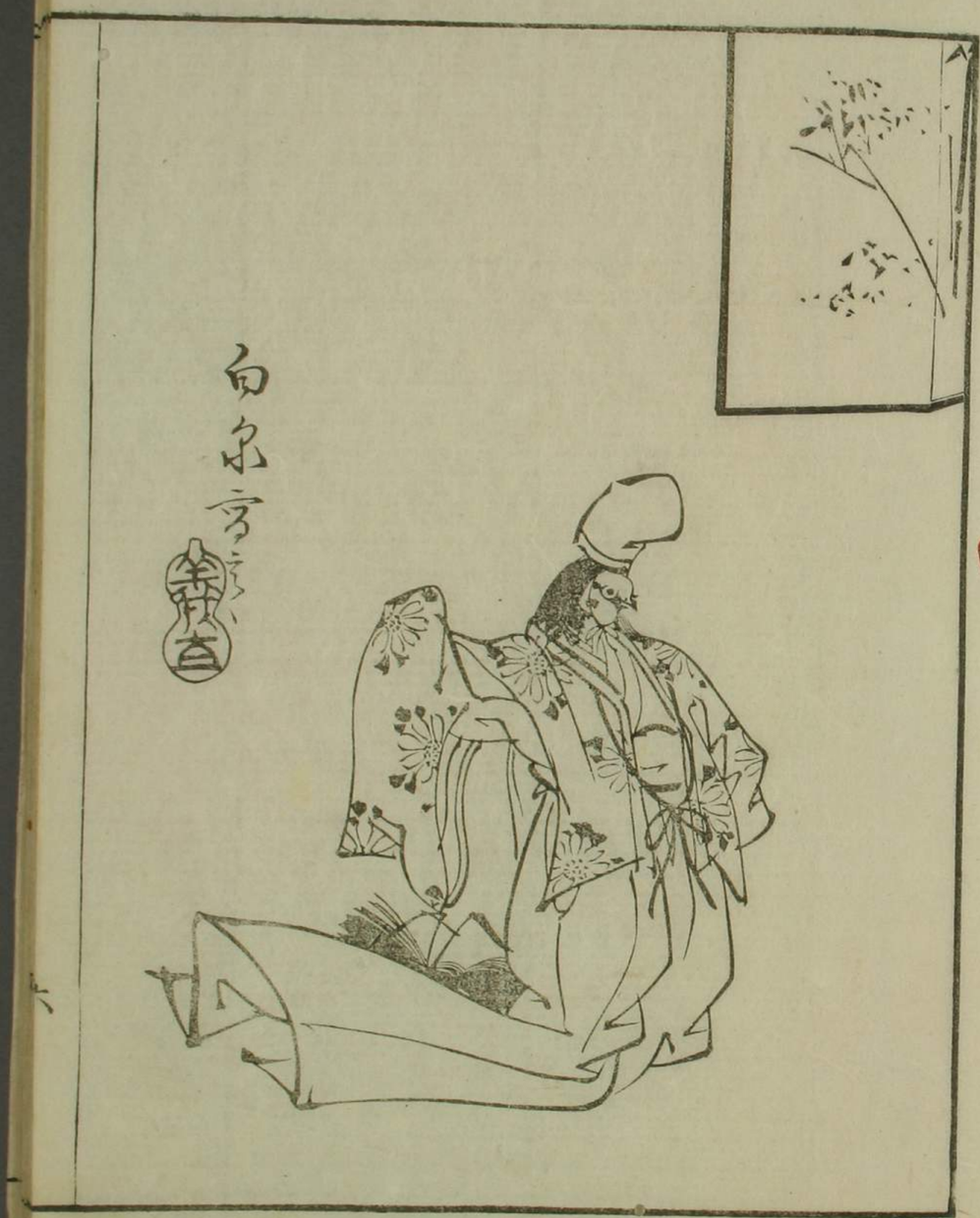
まそ。おゝひつゞけゝらるて。はゝれふるれーう。ゑゝぶる
うーなゝぶゝたゝれて。ぐはーうもえさこえゝぐらず。こ
はやふふ。ぬんゝまふらんをうにれどふのふ出れて。
いで。いれば君ゝうふかふゝふ人もはゝし吹まく長
はれおゝぐゝうもんるゝゝむ祢ふるずて。はーずり
を志てれけどもこうひれ。やゞて旅ゝそひーて。物の
ゆゝくを尋んとす。
いのれらん志らぬ心路をゆきゝて日もくれ井
ふ神ゞゝ志ゝんゝんとにずちびつ。岩根ふゝ木の根

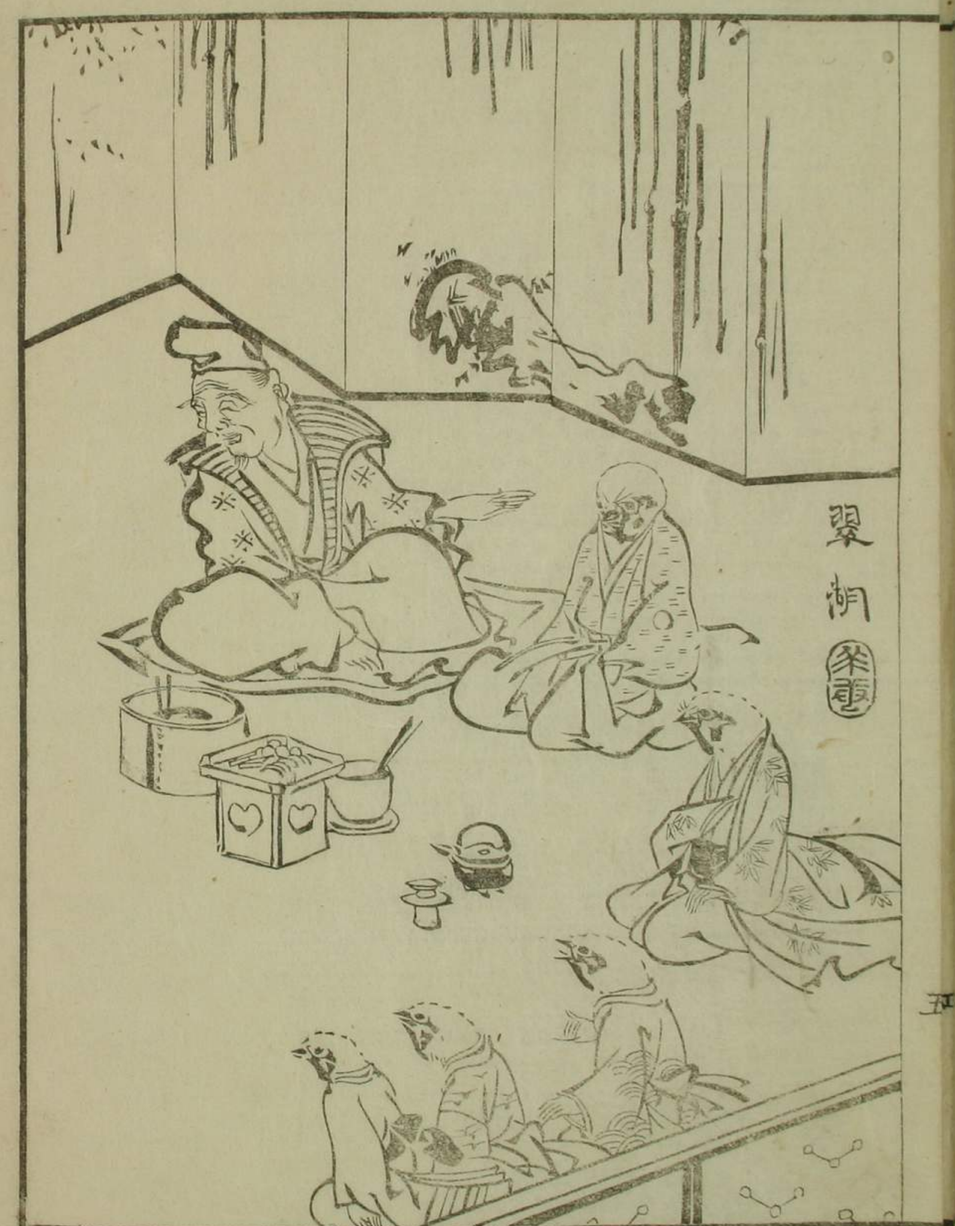
ちぢつてゐる元のぢ尋ゆくにかちうたていと切
やうれさわたいちうぬ。ゐれうてれ。たゞの糸乃屋。
きちり〳〵きう　あをあら屋。いちうをつら糸て。
月をかゞやく　だうれるうう　ちろいいちぶこちら
おぢえて。のとするうう　尋する滝のおかち。
松風ー　ゑゞきのゑて。糸ちるむろ殿のうちみの
おくに。ちちきえゞゐ流きわ　ちんりかきれうちち。
世ちもりうに　ちげりそ。子代乃さうえをゆらちー。
ふゐおろーのさとふくおとゐ。むち雨のれゞうれ嘉の。

夕日かげゐ　きちちんきてだうゞるー　さ肉をべて女の
糸のこちちてゞ　尋ゝとだうおゞめうれぬ。お家
門のちちるゐかゐきぬ　ゐまゞ糸震すそひ
きゞの菜摘　ちるうう。

おゐづうれゝゞすゝう　ぬるゐこふ屋ゐをゝのゞうて
さてーうてれいちん　れ

兵世のうきふー　ちげきゞ女の井をくそゐすめ
のちむ布ぞこれゞいふ　おうれうれ　ちきことかぎり
れー。ちいはゞ屋のおをと人ゐて。尋の尋ちんこと


白糸亨


翠湖

をゐるゞ此物ゐなかぶき初てぞあるん。南おとて
らうむこのいれて。うるゐゐとも生むぬそ乃さま
いらゞさ画仰といへども。筆おくぶやすゞう。言の葉
ふいつとも。ふふゑむすゞれるべ。たゞの廣とめ。ゞ
のさゝものゞゞむいばさらふもいそ波老もいのゆと
いふうゆ酒おゞ伊くれと祢んざろふゐるゞゆう
けたゞうがくておくゆすゞるすゞ此乃すゞれを
すぐるに。えれらぬゞゞ物たゑやたこのをうてふゞさ
ゐゆ乃衣ふふひゑんでさく、瑪瑙のうんざゞ光ゐざ

やたゞなつゞものを琴むさちゞてげふそくにとり居
ゞる人ゐゞこれちんこの風のゐるゞれゑる。さちやう
れどもおゞゆゞてゐゞらそにうちとけゞるものうゞゆ
かにえんゑ。ゆばゆさざう。ゐゐざやうづき。
ゑゞをふゞゞてえんおゞゆゞるさゆゞれゞゞゐふゞの秋
のをゆゆあ弁ゆゆゞうゞゞれて。
ゞゞゆゆまでゆゐいまそれりん浦急がむゞおゞゐる
ゞふふもゐるれ
雨ゞ手勢を志のゞゞ乃のいゞづきも心のゐひゐる菊ふ

まるうどうさへば。はるばるいでさせられてかたら
けさまへ。はるさまちふ人へ。はそびせくらわ〜
のさまふこ志乃志〜。かく〜のぜざやうむ義
つ〜〜るかげうま。姉乃さえどをわうぎ〜〜る
薬姫乃。けげうち申。〜さが。てらせこさてをうこ〜
〜薬ふ。袖乃ホそむの国を。はれるう。おを
ほえず。雷のこひだち。吹どうられどず〜。はは。はは
うう〜をせ。びうち。まるもんば。はるば〜。はをめ
と。ゆ志うつ義の。ゆ。むざ。さ〜〜う。ま。

いしとも代君ま。ふ。ま。ま。ひつ。碎をすめの
酒志ら。ざせん。かて義ふむ。のひていふや。ゆ。て
志乃志ア。やれ。ま。れつる。ず。ん。ふ。ん。ど。志
の。ゆ。さ。ま。し。ま。ん。ん。おだて。ま。ま。を。の。ま。む。
今。う。ふ。る。ま。ま。に。こ。り。ま。ま。ま。ま。る。を。雷。雲。ふ。る
き。乃。乃。ゆ。ま。て。を。ま。ま。ま。ま。志。ま。ま。ま。ば。ま。ま。ず。
む。ご。ま。ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ん。
な。ま。れ。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
し。つ。ん。ま。う。ず。そ。の。こ。の。ま。つ。ま。ま。ん。ま。ま。ま。ま。む。

いて。居ふきまるべき物なるんさるべつぐ物をふつ
おやとう。代ふつくて。ふるつのこのごさぐ。ぶ。
こうろく。ゑ。ふおとーいづれをろ屋のうるまよ。居
のこんふまるきんといへばつれ今い老ろう。おとさ
をあれちんちつれ。この物ごさをこそといふよ。
やどておとと人ちもせるーど。
いふーこのおとさんぐみふむろそんおるかごー
ふーかろくとと。おされ。
ぶこのぬこれろいごのおとこざうーこむ新

ふさけや君ぐうまるもの。うずくろびさこんもおに
こうてつぶたてこのものをかくてやづて
こんをおらまんしいたくさの宝をはぐんぼうだろう
廣をはやふーさいくむらもこそぐぼくーくー。
おられさらばおのしまぐねゆきてんとそいそぎ
かのさくーいくてをとめんてこんすされど
おられとハやこうそうてまるけれどもいとおろ
そくり仕さまで。かくてこのくらんとそいあや
うーさきふ義ぷをとくそまうぷんごろう。

いみじきかいごをまひらさいでおのれふるとゝ
はれどらふこゝばかりさいあるゞ景なりて今い
おもさのゝゝゝてさんどこいとゝゝさまら
をれらぶ志てぱゝつこゝるゝんといふおゝれ
うゝらゝてかゝゝこそ老くづれゝれちゝゝハ
ゐ人ふいゞおゝんゝて志ひてこゝえてあゝり
うゝんゝゝいゝおゝゝゝゝゝそゝて乃乃
ほゝゝゝ松ゞふいこゝえて すゝゝゝすゝゝゞり
くゆらゝゝつおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれば。

志この義いゝゞ物ふゝゞてみれひの物とあさん
ことゝきるゝゝゝそこのこゝこのホ乃ゝとふて。そゞれて
ゝゝゝ物ハゝゝゝ出てふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ志ら
志ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

やうりゐやーげあるものゝすまふぞむらごりせて。
ゝもいでゝをにぎりぞうぞむさを祓ぶりゝるハ家をれ
ん。ゐるハつさをとゝふまぶりてせむるこゝろとは
ぎゝう。おゝれくるーさゝーゝんぞゝるゝそハれげさゝふ
ゝていハれさ。さけぶをゝるゝゝえて分をくゆしぶるも今
ハふゝれ。このひかハゐるぶさ。
うるハーゝきんをゝらのゝゝぞと加祓て初り
せハこのゝらはーやハつひふそこにゝれゝあるゝゝ義
ハ今さくゝゝみ泉ふえてゆをおくゝゝゝ我すべて

ゝの井ふゐりゝゐるゝ人ゝるさも祓さも。禍津日
神乃ゐらぶを礼ごゝんて。ゐーゝさゝゝゝをゝ
まて。直毘神のさゝはひをえて直さんをゝつぶ
さゝゝふれんこハおのゝをちゝしろぶをさる
まのやそぶぶれ義のゐゝふ物ぶりしを
ゝゝーんまるゝ祓業て今ハゝゝゐるのゐーふや
ゝりふんゝふ耳乃そこゝ祓きるをゝゝふれ
て業をゝゝりーゝゝやーれさすさぶるれんゝでや
このゝりぶゝものおゝもむさハゝづれ乃はいゝれるふ

うるさんまなりしも。
文政のころ。はじめて。ものさつたるものの。むさし一国のうちにて。八王子の城ぢやうの。石井さわ。不書乃
言稱にて。むかふ。樓亭に。葵のもとに。
あづまにて。井上淵蔵
しるす

東畝

かくまでなりて年ごろのんまるハ
れ物をもよんしてみてそもむけ
つのあくしをもるを命一生きて社つる花
さかりを社里の物語もかくるのこらひまる
故こそ人情をもよれあるしなひさ
る物体ほくまてしうきく中門学のみ
やしうるまるかり一つまを一面ゆきく
如くなり物りしまるをもをかくをもをかくと
なれるものをしへをもをかくるなもハまるのまるの

なるんをるを物多れをうりをみりをおを
ろ家と物めをまるをもをもをる物
をれ物をしをいれをを家を
九江をれあるを
俳諧

けふてすぎぬ　ひのうへをさらはのう
まつかれ　里ゆ名残にて
世雄人　よ我城
そ　めのかうれさと
うく　れぬそのむふ
をそ　ふ　光貞

古りあり　ひ一戸知
ひのうへをいしらぬ　もすかうは
あかつめつれ　春雨
うれ人よあうそ志ふん
いうのうさ　政德
ん　城
れの　時云
ひうれ　ふ
かうぬ　生風

千代のうゑ世をふるは
たゝゝはのかゝらぬさき
ゆくすゑをまもるさゝ枝 言忠

古事記又家夢に
こゝ衛門ゐさゝ枝まの
こゝはこゝにねがひ 與清

こゝはこゝの国は神なるも
しのけまゝ
みやはこゝにこゝ
年こゝ和歌
夢のみの
いこゝ

楊枝

後編

梅園翁の著書いろいろ有
りしかども編のこと〻く作者の意を
よく〻徒生その意を附録す

二冊

檀亭義

製本所　江戸本石町十軒店　英大助

帝國圖書館藏
餘志歌解